

漢語動名詞之日中對譯研究

陳志文

國立高雄大學東亞語文學系副教授

摘要

日本語教育中，尤其在中高級閱讀課程的文章裡，常常可以發現到「漢語＋する」這一類的漢語動名詞和初級日語閱讀文章相比，有大幅度增加的趨勢。這一類的動詞當中，例如「想像する」「連絡する」「凝視する」等，和中文意思幾乎沒有甚麼兩樣，學習者十分容易掌握。可是，像「崩御する」「把握する」「感心する」「退屈する」「質問する」等等之類的動詞，有些是中文裡不用的動詞；有些則是中文裡雖然也使用，但是意思上卻有所不同。這一類的漢語動名詞，可想而知，對於學習者造成相當程度的困擾。然而，有關漢語動名詞的研究，一直以來研究重點主要是放在語構成的觀點上，將結合的關係加以分類整理。例如，仁田（1980）、小林（2004）等研究。漢語動名詞的中日對照研究似乎並未受到重視。因此，本論文期待透過此項研究，能夠找出漢語動名詞和中文的對照類型，期能在日語教育上有些許貢獻。

本稿的對象設定為『1Q84 book2』（村上春樹 2009）。研究方法則是將這兩本書中所有「漢語＋する」的所謂漢語動名詞全數挑出。其次，則從對譯本（賴明珠 2009 翻譯）中找出相對的中文意思，進而觀察這些漢語動名詞和中文的翻譯，最後將這些漢語動名詞的翻譯型態完成適當的分類。

關鍵字:漢語動名詞、對照研究、日本語教育、對譯

漢語動名詞についての日中対訳研究

陳 志文

国立高雄大学東アジア語文学科副教授

要旨

日本語教育においては、特に中上級の読解教育ともなると、「漢語＋する」といったような漢語動名詞は初級の教材に比べ、大幅に出てくる傾向がある。この類の動詞では、例えば、「想像する」「連絡する」「凝視する」などのようなものは、中国語の字形や意味と殆ど同じであるのに対し、「崩御する」「把握する」「感心する」「退屈する」「質問する」などのような漢語動名詞は、中国語には完全に用いられないものもあれば、中国語には用いられるものの、中国の意味とは全く異なるものもあるわけである。もちろん、前者のような漢語動名詞なら、意味的にも字形的にも中国語と同様であるため、学習者にとってはそれほど難しいものではないと考えられるが、後者のものになると、困難を感じるようである。したがって、もしこのような日中対応のパターンが類型化できれば、中国語を母語とする学習者に対し、漢語動名詞を学習する際に一助を提供できるのではないかと思われる。

したがって、本稿では『1Q84 book2』（村上春樹 2009）を研究対象とし、「漢語＋する」のいわゆる漢語動名詞をすべて抽出し、中国語の対訳本（頼明珠 2009 訳、時報出版）と対照・比較したうえで、類型化してみた。

キーワード：漢語動名詞、対照研究、日本語教育、対訳